

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横須賀地方合同庁舎	階数	地上7階 地下1階
建設地	神奈川県横須賀市	構造	SRC造
用途地域	準工業地域、新港町地区地区計画	平均居住人員	274人
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2013年3月 竣工	評価の実施日	2013年3月14日
敷地面積	6,000 m ²	作成者	株式会社東畑建築事務所
建築面積	1,985 m ²	確認日	2013年3月15日
延床面積	9,822 m ²	確認者	株式会社東畑建築事務所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.7 ★★★★★☆

S: A: B+: B: C:
100 3.0 1.5 BEE=1.0
70 2.7 26
環境品質 Q
0 50 100
環境負荷 L

2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能
Q1 室内環境
Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー
LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境

2-3 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

建設 修繕・更新・解体 口運用
参照値 100%
評価対象 73%
0 40 80 120 160
(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
横須賀の新たなシンボルとなる魅力的な街並みの形成。 横須賀のまちづくり計画と連携し、さまざまな人の交流拠点となる都市空間の創出。 多様な官署が同居する合同庁舎としての性能への配慮。 持続可能な社会に貢献するため、効果的な環境負荷低減・維持保全に配慮した施設整備。	横須賀市の景観計画より「うみかぜの路景観重要道路」に指定されている小川三春線からの眺望、周辺建物との調和に配慮し、新港町地区全体が一体となって横須賀らしい良好な景観をつくりだす取組みを行なっている。	
Q1 室内環境 VOC発生のない建材等の使用の徹底。 喫煙制御として喫煙ブースを設置。	Q2 サービス性能 構造体 類、建築非構造部材A類、建築設備甲類 を満足する仕様を確保。	Q3 室外環境 (敷地内) 建築意匠、形状、素材、色彩の工夫及び周辺地域との緑の連携によるまちなみ・景観形成。
LR1 エネルギー 累積時間・エネルギー消費動向等の履歴・分析が可能なシステムによる運用・維持。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器、自動水栓による節水。便所排水用として雨水利用、雑排水再利用システムの導入。 リサイクル材の使用及びフロン・ハロンの使用回避。	LR3 敷地外環境 適切な駐車台数、スペースの他、荷捌きスペースを確保。 ゴミの種類や量の把握、回収スペースと設備を設置。 光害対策に則した計画の実施。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される